

各 位

上場会社名 株式会社マツモト
代表者 代表取締役社長 松本 敬三郎
(コード番号 7901)
問合せ先責任者 取締役総務部長 梅津 武
(TEL 093-371-0298)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年12月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

2022年4月期通期個別業績予想数値の修正(2021年5月1日～2022年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,680	40	60	130	344.40
今回修正予想(B)	2,350	△210	△190	△1,300	△3,444.03
増減額(B-A)	△330	△250	△250	△1,430	
増減率(%)	△12.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年4月期)	2,270	△365	△344	△389	△1,030.84

修正の理由

1.売上高・営業利益・経常利益

1.1. 売上高につきましては、学校アルバム部門において前期・2021年4月期が新型コロナウイルス感染流行の影響で、それ以前の安定的な売上高である2,100百万円前後から1,710百万円と大きく落ち込みましたが、2022年4月期は前期からの期ずれ分が約150百万円がありましたので、少子化による減少も加味いたしましても、コロナ禍前水準の2,100百万円は達成と見込んでおりました。

しかしながら、コロナ禍の2年間に於いて、業界の過当競争は各社生き残りをかけて激しく厳しいものとなっており、もはやコロナ禍前のレベルに戻るには難しく、当社の基礎的な(コアの)学校アルバム部門の売上高は、2022年4月期では1,700百万円程度であり、これに期ずれ分の150百万円を加えて、1,850百万円となる見込であります。

また、一般商業印刷部門は、580百万円の売上高を見込んでおりましたが、コロナ禍で大きく落ち込んだ印刷需要は昨秋に少し回復の兆しが出つつも年明けの感染拡がりから期後半の売上が伸びず、500百万円となる見込みであります。さらに、この背景には、コロナ禍での紙資源減少の風潮によるペーパーレス化のさらなる進展があります。

1.2. 営業利益および経常利益につきましては、当社は固定費率が高いため、売上高の減少が直接損益に与える影響が大きい構造であります。上記売上減少により、人員減をはじめすべての費用の削減に取り組んでまいりましたが、期中の諸物価の値上り等もあり、売上減少額330百万円に対し、コスト削減額は80百万円にとどまり上記のとおり予想より250百万円の損益悪化となる見込であります。

2.当期純利益

当期純利益の修正は、上記営業利益・経常利益の修正に加え、特別損失(減損損失)・1,200百万円の計上によるものであり、この内容につきましては、本日・5月31日別途発表の「特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ」のとおりであります。

以上